

編集後記

矢作川研究所は今年で創立10周年を迎えました。ここに、皆さまのご尽力によって「矢作川研究」の8号を発行することができました。

今号では、前号で紙面上掲載できなかった論文を「特集・矢作川中流域の陸上生物」として紹介しました。研究所設立当初から問題になっている糸状緑藻（カワシオグサ）については、河川工学的なアプローチや栄養分析という資源科学の論文も加わり、新たな知見が示されています。また、矢作川流域で様々な活動に携わっておられる団体を代表して森林保全と環境啓発活動について報告いただきました。

編集を終え、当研究所は共同研究者の方々をはじめ、多くの専門分野の研究者、愛護団体の方々などの長期に渡る活動によって支えられていることを再認識しています。このような皆さまの温かいご支援のもと、成人病を患ったと形容されている矢作川に「川らしさ」を取り戻し、流域の豊かな自然環境の創造に貢献できるよう、これからも日々の調査研究活動に取り組んで行く所存です。皆さま、どうか末永くおつき合ってください。

最後になりましたが、ご投稿頂いた皆さま、陰ながら原稿をチェックして下さった方々、編集にご協力いただいた方々に心より感謝いたします。また、本誌を手にして下さったおりに、ご意見、ご助言、ご批判をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

2004年3月

矢作川研究編集委員会